

江戸時代の史料から探るツルと人との関係史

— ツルを獲り、飼い、食べていた頃の話 —

演者…久井貴世氏

(北海道大学大学院文学研究科専門研究員)

「鶴の汁は生にても又塩鶴にても…」(江戸時代の料理本より)
日本各地の空を舞い、縁起の良い鳥として親しまれてきたツルは、江戸時代には貴重な食材、贈答品、あるいは狩猟の獲物でした。

ツルの捕獲方法は？誰がツルを飼っていた？ツルってどんな味？
本講演では、みなさんの疑問にも答えながら、ツルを獲り、飼い、食べていた時代の、ツルと人との意外な関わりを探っていきます。

5月28日(土) 14時〜16時

(質疑応答あり)

会場…釧路市立博物館講堂(申込不要・無料)

主催…タンチョウ保護研究グループ

共催…釧路市立博物館、釧路市立博物館友の会

上図：梅園禽譜 鶴

下図：御鷹野図巻(国立国会図書館所蔵)

2016年7月14日、博物館は創立80周年を迎えます。

釧路市立博物館

〒085-0822 釧路市春湖台1-7

Tel 0154-41-5809 Fax 0154-42-6000

Mail museum@city.kushiro.lg.jp

Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

